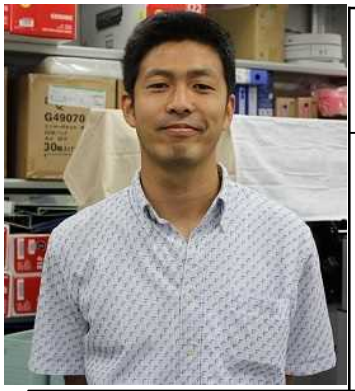
ママだけでなく、パパも産前・産後うつになりやすい！？

国立成育医療研究センター提供
作成日　2016年2月9日
更新日



研究者氏名
たけはら　けんじ
竹原　健二

所属機関
国立成育医療研究センター研究所
政策科学研究部

関連キーワード（複数可）
国際保健、母子保健、疫学

主な研究テーマ
・妊産婦ケアに関する研究
・「助産師の知恵」の科学的根拠に関する研究
・妊産婦およびそのパートナーのメンタルヘルスに関する研究

主な採択課題
・基盤研究（B）平成23～24年度（配分総額：4,030千円）
課題名「わが国の男性における産後のうつの有病割合と、その予防要因の解明に関する縦断研究」
・基盤研究（C）平成25～27年度（配分総額：4,030千円）
課題名「父親に焦点を当てた両親学級の介入プログラムの開発と準ランダム化比較試験による評価」

① 科研費による研究成果

・これまで、産前・産後のメンタルヘルスの不調は、妊産婦の健康課題と考えられてきたが、本研究では、そのパートナーである男性も、その時期にメンタルヘルスの不調に陥りやすくなることが示された。

・2012年から愛知県西尾市の保健センターにて、母子健康手帳の交付申請に訪れた妊婦とそのパートナー270組を対象に、妊娠20週から産後3か月までの計5時点でメンタルヘルスのスクリーニングなど質問票調査を実施。

・産前・産後の計5時点でEdinburgh Postnatal Depression Scale (EPDS)を用いて、妊産婦とそのパートナーのうつのリスクを判定したところ、妊産婦は7.0-10.9%で推移し、パートナーは6.3-9.0%とほぼ同水準で推移することが明らかになった。産後数日から3か月のいずれか1時点以上で「うつのリスクあり」と判定されたパートナーは16.7%にのぼった。産前・産後の追跡調査により、パートナーのメンタルヘルスのリスクや、虐待行動への関連が示されたのはわが国で初めて。現在はその予防に向けた介入研究を実施中。

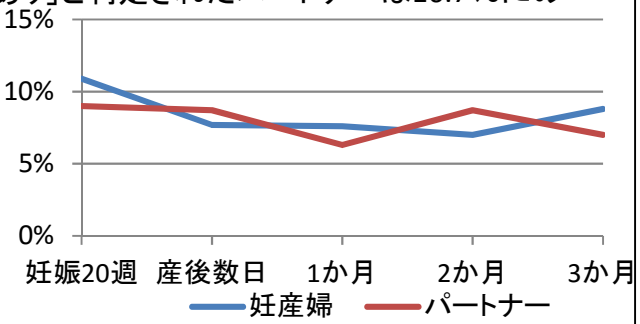


図1．妊産婦とそのパートナーにおけるうつのリスクありと判定された者の割合の推移

② 当初予想していなかった意外な展開

・本研究の結果である「産後は父親もうつのリスクが高まる」ことを示す記事が、平成28年1月6日の毎日新聞朝刊に掲載された。
http://mainichi.jp/articles/20160106/k00/00m/040/136000c

・新聞記事は教育評論家の尾木直樹教授をはじめ、数多くのブログや、Webメディアに採り上げられ、一般の方々に広く周知された。http://ameblo.jp/oginaoki/entry-12114509357.html
http://suzie-news.jp/archives/15199

・その後も日本経済新聞やNHK「あさイチ」からの取材を受け、日経新聞には記事が掲載される予定で、「あさイチ」では3月末に放送される企画として、NHK内部での検討がおこなわれているなど、反響を呼んでいる。

・愛知県西尾市やいくつかの分娩施設では、妊婦健診や乳児家庭を訪問する際など、パートナーの健康状態も確認するようになるなど、パートナーへのケア・サポートの意識が向上した。

③ 今後期待される波及効果、社会への還元など

・妊産婦に対するパートナーのサポートや、家事・育児への主体的な関与を促進することは重要である。一方で、保健医療従事者はパートナーの健康状態にも配慮をする視点が広がることが望ましい。また、パートナーが家事・育児に関わりやすくするためにも、中・長期的な時短制度の活用や残業時間の短縮など、労働環境の改善が急務である。